

# 醉花

---

千切れた雲の隙間に 映 波雲飄過的空隙之間 掩

ゆる今宵の月は  
解けた帯によく似た 淡  
い花模様  
愛し君の唇が 口ずさむ  
手毬唄  
あの日の面影はもう 禍  
夜最後の果て

映出今夜明月  
恰似寬解下的腰帶上 淡  
雅花紋  
妳可愛的小嘴 輕聲哼起  
童謠小調  
那日容顏已成爲 那夜災  
禍最後的結果

---

根雪の下で芽吹いた意思  
の  
蕾は何処で咲くのだろ  
う？  
差しのべた手の温もりは  
変わることなく

殘雪下破土而出的心意  
  
花苞又會在何處綻放呢？  
  
伸出的手 溫暖還尚未消  
散

---

失くした物を忘れ去るよ  
うに  
過ぎ行く四季の移ろいに  
道の端揺らぐ花よ 君は  
今何思う

就像要忘卻那些失去的事  
物  
四季輪轉交替不停  
路旁搖曳的花啊 妳現在  
又在想什麼

---

遠く滲む縹色 流々と旅  
行く魚は  
「己が運命」と散りても  
羽瀬に惑いて

共長天一色的流水 絡繹  
不絕的魚群  
說是爲「自己的命運」而  
犧牲 卻是困入了魚簍中

葉黒無く脆く砕けた命  
（ツキ）の  
欠片は何処へ還るだろ  
う？  
天翔けるその煌きは 語  
ることなく

飄渺而脆弱的這已經破碎  
的生命（殘月）  
碎片該歸還於何處呢？  
曾經在天空翱翔時的輝煌  
也無人能訴說

共に朝まで話した夢を  
紙の小舟に浮かべよう  
長く続くこの旅路を 静  
かに見送って

一同徹夜暢談的夢想  
摺成小紙船浮在水面上  
這段漫長旅途 只能靜靜  
目送

君在りし日の あの彩り  
よ  
何時かまた音連れるよう  
に  
ぽつり、ぽつり 紡ぐ音  
霊 夜風に乗せて

妳尚在時的 那片光彩啊  
要待何時才能傳來音訊  
一點一滴 紡出的音符  
乘上夜風

去りゆく物へ 捧ぐ思い  
の  
その儚さに止め処なく  
瞼から落ちる玉は 何故  
杯を染む

對遠去的事物 奉上思念  
這片虛無感無處可安  
眼角滑落的點滴 爲何濁  
了杯中酒

又是一首以《碎月》爲曲調填詞寫的歌呢，算上之前翻譯過的《愛き夜道》和《月見桜》這已經是第三首了，看來我真的很喜歡《碎月》的曲調呢。聽過之前這兩首的人大概會感覺出來，雖然三首歌有共同的曲調，卻有不同的曲風，大多東方同人的音樂都是如此，因爲原曲都是神主ZUN的遊戲配樂，沒有歌詞，於是同人創作者根據各自的理解重新演繹成不同的二次創作。某種程度上，這很像自由軟件社區呢。

すいか

標題「醉花」，是個文字遊戲，因爲《碎月》這首曲調算是《東方萃夢想》的BOSS 伊吹萃香的主題

すいか

曲，標題就是萃香這個名字的不同漢字轉寫。

曲風用詞非常古樸，以至於只看到了兩個音讀漢字詞（「意思」和「四季」），別的漢字都是訓讀，甚至作者給出的訓讀表記的一些詞的漢字寫法接近萬葉假名，而非現代更常用的訓讀漢字，看來作者是想模仿中古時代那段時期的日語風格。這古風翻譯起來也更困難，於是照例，標假名的同時給出字詞解釋。

ちぎ くも すきま は ちぎ くも  
千切れた雲の隙間に映  
こよい つき  
ゆる今宵の月は  
ほど おび に あわ  
解けた帯によく似た淡

ちぎ くも  
千切れた雲：ちぎれ雲，  
厚層雲下流動的斷片雲。

はな もよう

## い花模様

いと きみ くちびる くち

愛し君の唇が口ずさ

てまり うた

む手毬唄

ひ おもかげ まが

あの日の面影はもう禍

よ も は

夜最の果て

てまり うた

手毬唄：手鞠歌，明治時期起小孩一邊玩手毬一邊唱的童謠。

ねゆき した め ぶ いし

根雪の下で芽吹いた意思の

つぼみ どこ さ

蕾は何処で咲くのだろう？

さ て ぬく か

差しのべた手の温もりは変わることなく

な もの わす さ

失くした物を忘れ去るように

す ゆ しき うつ

過ぎ行く四季の移ろいに

みち はじ ゆ はな きみ いま なに おも

道の端揺らぐ花よ君は今何思う

とお にじ はなだいろ るる たび

遠く滲む縹色流々と旅

ゆ うお

行く魚は

直譯：遠去的淡藍色融入（天空），匆匆趕路旅行的魚。

おれ さだめ ち  
「己が運命」と散りて  
はせ まど  
も羽瀬に惑いて

はせ  
羽瀬：一種類似魚簍的竹  
製捕魚工具，漲潮時等魚  
游入其中，落潮時把魚困  
在裏面。

はかな もろ くだ ツキ  
葉黒無く脆く砕けた命  
の

はかな  
葉黒無く：現代訓讀漢字  
はかな  
寫作「儚く」，飄渺不定  
ツキ  
的。命：這裏命是当て  
つき  
字，讀作月。

かけら どこ かえ  
欠片は何処へ還るだろ  
う？  
あま か きらめ  
天翔けるその煌きは  
かた  
語ることなく

とも あさ はな ゆめ  
共に朝まで話した夢を  
かみ こぶね う  
紙の小舟に浮かべよう  
なが つづ たびじ しず み お  
長く続くこの旅路を静かに見送って

きみ あ ひ いろど

君在りし日の あの彩  
りよ

いつ おと つ おと つ

何時 かまた 音 連 れるよう 音 連 れる：現代訓讀漢字  
に おとず

寫作「訪 れる」，到訪，  
造訪。倒是原本的寫法「  
おと つ

音 連 れる」更能體現「帶  
來音訊」的意思。

つむ おと

ぽつり、ぽつり 紡ぐ 音

たま よ かぜ の

靈夜風に乗せて

さ もの ささ おも

去りゆく物へ 捧ぐ 思いの

はかな と と

その 儚さに止め処なく

まぶた お たま なぜ さかずき そ

瞼から落ちる玉は何故 杯を染む